
セツナ

架山穂波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

セツナ

【Nコード】

N3245B

【作者名】

架山穂波

【あらすじ】

某有名進学塾に通う僕は、そこで出会ったたくさんの人の中で、たった一人の女の子に恋をする。名前も知らない、住んでるところも、どんな性格なのかも、全く知らない。一目惚れのような、でも少し違うような・・・あいまいで今にも壊れそうな、僕の小さな恋の話。

出会い（前書き）

初めての恋愛小説なので、どっきどっきです（笑）

出会い

僕は高校3年生、いわゆる受験生だ。

そんな訳で、某有名進学塾に通っている。

あ、可哀相だなんて思わないで。僕は結構塾が気に入ってた。本当に。

勉強は別に嫌いじゃないし、それになにより・・・

あの子がいる。

あの子に初めて会ったのは冬になりかけの時だった。

皆が弁当を食ったり、喋ったり、静か過ぎると勉強できない奴（僕みたいな）が勉強したりする場所（フリースペースって言われてる）で勉強していると、彼女が入って来た。
友達と2人、笑っていた。

超ーかわいい！！！！！！

・・・ってわけではなかった。わかるかな？皆が可愛いつて言うわけじゃないけど、特定の奴らにはウケる的な可愛さ。
で、その特定の奴がまさに僕だった。

でもここは塾。しかも有名進学塾。人なんて溢れるほどいる。教室だって腐るほどある。その中で一目惚れなんてしてみる。死ぬ。
どこで会えるかわかんないじゃないか。
と言うより、再会できるかすらあやしい。

だからその時はただ、可愛いなーとちょっと思っただけだった。

それからしばらく彼女には会わなかった。

僕はヨコシマな理由もなく真面目に、勉強目的で塾に通った。

毎日が淡々と過ぎていき、季節はもう、冬だった。

塾では冬期講習が始まり、いよいよ受験も間近というときに、彼女を見つけた。

いつも一緒に来ているのだろうか、最初に見かけたときと同じ友達と、彼女はエレベーターを待っていた。

「疲れたー！！まだ冬休みでもないのに冬期講習とか嫌んなる・・・」

初めて聞く彼女の声に、僕はどぎまぎする。

間もなくエレベーターが来て、彼女は去っていった。彼女が立っていたであろう場所を、じっと見つめる僕が、そこに一人残った。

これが恋なのか、僕にはまだわからなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3245b/>

セツナ

2010年12月14日19時22分発行